図説日本の古典

第1巻／古事記	武蔵大学教授 神田秀夫	奈良国立文化財研究所長 坪井清足	学習院大学教授 黛　弘道
第2巻／萬葉集	筑波大学教授 伊藤　博	成城大学教授 上原　和	学習院大学教授 黛　弘道
第3巻／日本霊異記	琉球大学助教授 小島瓔禮	奈良国立博物館 上原昭一	東京大学助教授 笹山晴生
第4巻／古今集・新古今集	東京大学助教授 久保田　淳	美術史家 白畑よし	聖心女子大学教授 目崎徳衛
第5巻／竹取物語・伊勢物語	大阪女子大学教授 片桐洋一	大和文華館 伊藤敏子	聖心女子大学教授 目崎徳衛
第6巻／蜻蛉日記・枕草子	明治大学教授 木村正中	美術史家 白畑よし	東京大学教授 土田直鎮
第7巻／源氏物語	東京大学教授 秋山　虔	東京大学教授 秋山光和	東京大学教授 土田直鎮
第8巻／今昔物語	早稲田大学教授 国東文麿	美術史家 梅津次郎	京都女子大学教授 村井康彦
第9巻／平家物語	神戸大学名誉教授 永積安明	大阪大学教授 武田恒夫	京都大学教授 上横手雅敬
第10巻／方丈記・徒然草	お茶の水女子大学助教授 三木紀人	東京国立文化財研究所 宮　次男	東京大学助教授 益田　宗
第11巻／太平記	早稲田大学教授 梶原正昭	東京国立文化財研究所 宮　次男	京都大学教授 上横手雅敬
第12巻／能・狂言	東京大学教授 小山弘志	京都国立博物館 切畑　健	大阪市立大学教授 原田伴彦
第13巻／御伽草子	国文学研究資料館長 市古貞次	東京国立博物館 高崎富士彦	東北大学名誉教授 豊田　武
第14巻／芭蕉・蕪村	福岡大学教授 白石悌三	文化庁 佐々木丞平	学習院大学長 児玉幸多
第15巻／井原西鶴	埼玉大学教授 長谷川　強	東京大学教授 山根有三	学習院大学長 児玉幸多
第16巻／近松門左衛門	学習院女子短期大学教授 諏訪春雄	大阪大学助教授 信多純一	横浜市立大学教授 辻　達也
第17巻／上田秋成	国文学研究資料館教授 松田　修	東京国立文化財研究所 河野元昭	学習院大学教授 大石慎三郎
第18巻／京伝・一九・春水	早稲田大学教授 神保五弥	名古屋大学助教授 小林　忠	立正大学教授 北原　進
第19巻／曲亭馬琴	明治大学教授 水野　稔	国立国会図書館 鈴木重三	東京学芸大学助教授 竹内　誠
第20巻／歌舞伎十八番	早稲田大学教授 郡司正勝	名古屋大学助教授 小林　忠	成城大学教授 西山松之助

図説日本の古典2　萬葉集
昭和53年3月20日　初版第1刷印刷
昭和53年4月4日　初版第1刷発行
著者代表——伊藤　博
©1978
発行者——堀内末男
発行所——株式会社 集英社
東京都千代田区一ツ橋2-5-10
電話—販売部　東京(03)230—6171
出版部　東京(03)230—6351
振替—15653／郵便番号101

印刷所——大日本印刷株式会社
用紙／カラー　王子製紙株式会社
モノクロ　日本パルプ工業株式会社
製本　中央精版印刷株式会社
文勇堂製本工業株式会社

製本には十分注意していますが，落丁・乱丁の際は
おとりかえいたします。
0391-167002-3041
Printed in Japan

萬葉集

集英社

図説日本の古典—2

〈企画委員〉
東京大学教授　秋山　虔
国文学研究資料館長　市古貞次
学習院大学長　児玉幸多
早稲田大学教授　神保五弥
東京大学教授　山根有三

〈第二巻・編集委員〉
筑波大学教授　伊藤　博
成城大学教授　上原　和
学習院大学教授　黛　弘道

目次●

◉カラー図版◉明日香／大和／蒲生野／『標野行』／菜摘／伝飛鳥板蓋宮跡／雷丘／檜隈大内陵／真弓岡／高松塚古墳壁画／藤原宮大極殿跡／『柿本人麻呂肖像』／山の辺の道／二上山／平城の落日／文房具／巨勢山／『鳥毛立女屏風』／歌姫越え／「赤人集」／山城国分寺跡／明石海峡／瀬戸内の島々／『東征絵巻』／大宰府／筑波嶺／安達太良山／大伴家持自署／越中国府／「大伴家持肖像」／因幡国府／多賀城跡／桂本『萬葉集』／元暦校本『萬葉集』／『石山寺縁起絵巻』

『萬葉集』の世界　伊藤　博……28
萬葉歌の特性　『萬葉集』の成り立ち

『萬葉集』の詩情——作品鑑賞　伊藤　博……41
白鳳萬葉・I（額田王の時代）　白鳳萬葉・II（人麻呂の時代）
天平萬葉・I（赤人・憶良の時代）　天平萬葉・II（家持の時代）

◉図版特集◉

萬葉時代の顔　上原　和……100
興福寺の阿修羅像／高松塚古墳壁画／法隆寺五重塔塑像／正倉院の布作面／麻布菩薩／『鳥毛立女屏風』／銀壺線刻画／麻布山水図／写経紙戯画／花氈画／紫檀木画槽琵琶／平城京の皿と木簡／人面土器／唐招提寺の帝釈天像台座／法華寺の十一面観音像

萬葉時代庶民の生活——農民の衣食住　黛　弘道……108
農民の食生活　農民の税負担　農民の住居と村落　農民の衣生活

萬葉びとの生と死　伊藤　博……120
山上憶良　大伴旅人　柿本人麻呂

大和は国のまほろば——萬葉紀行・I　大和　伊藤　博……128
山の辺の道を行く　明日香古京を行く　吉野道を行く

筑紫の海に歌える——萬葉紀行・II　筑紫　上原　和……136
対馬　筑肥の海　筑紫野

み越路の海山——萬葉紀行・Ⅲ　越中　黛　弘道……142

越中への道　家持の管内巡行

◉図版特集◉

白鳳の美　上原　和……149

旧山田寺仏頭／野中寺弥勒像／川原寺方形三尊塼仏／慶州南山三花嶺菩薩像／鰐淵寺観音菩薩立像／松林寺舎利容器厨子／橘夫人厨子／感恩寺の双塔／水中王陵／法隆寺金堂小壁の飛天図／飛天文軒瓦／高松塚古墳出土透飾金具／雁鴨池新羅敷塼／豊前天台寺跡軒丸瓦

◉図版特集◉

天平の芸術　上原　和……158

石窟庵十一面観音菩薩立像／法隆寺九面観音立像／李賢唐墓壁画／唐三彩楽人を乗せた駱駝／沖ノ島奈良三彩小壺／アフラシアブ壁画／白瑠璃碗／獅子狩文様錦／ササン朝帝王狩猟図銀製皿／頭塔の阿弥陀三尊像／バーミアーン石窟の大仏

海東の国と白鳳の美　上原　和……164

海東の国・新羅　白鳳文化とは何か　白鳳美の諸相と新羅

西方憧憬と天平の芸術　上原　和……178

唐朝文化へのあこがれ　天平芸術とエキゾチシズム

◉図版特集◉

萬葉時代の都と地方　黛　弘道……189

飛鳥板蓋宮跡／大津京跡／飛鳥浄御原宮跡／藤原宮跡／藤原宮跡の瓦と木簡／造酒司の遺構と木簡／和同開珎・神功開宝／二彩釉の壺／三彩釉の蓋／醴大郎椀／東院緑釉瓦／難波宮大極殿基壇跡／恭仁宮大極殿跡／大宰府政庁跡／大宰府政庁跡の軒瓦／大宰府跡の宝相華文塼／水城跡と木樋遺構／大宰府政庁跡の土器／多賀城遺跡／緑釉花文皿／白河団木簡／多賀城の武器／出雲国庁跡／伊場遺跡の絵馬木簡／梅曽の私印／郡・郷名瓦／人名瓦／甲斐国分寺塔跡

萬葉和歌の背景　黛　弘道……200

古代史の中の萬葉時代　萬葉の前期　萬葉の後期

『萬葉集』にあらわれた地名分布図　村田正博……214

『萬葉集』大和要図　村田正博……215

『萬葉集』関係年表　村田正博……216

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

凡例

1　古典文学の珠玉の名作を立体的に構成した本シリーズでは、その内容をさらに意義づけるため、その部分の執筆者が各図版の解説にあたったが、それ以外の場合は、とくに解説の末尾に氏名を付記した。

2　本巻の仮名づかいは、原則として現代仮名づかいによったが、古文あるいは特殊な美術・歴史用語の引用などについては原本通りとした。

3　参考文献を各部分の章末に一括して注記し、読者の便をはかった。

4　各図版に添記した国宝・重文・史跡のうち、重文は重要文化財、史跡は国指定史跡の略である。

5　本巻の図版写真および資料の収集にあたっては、その所蔵者・管理者・提供者・撮影者など、関係者各位のご好意とご協力を賜わった。

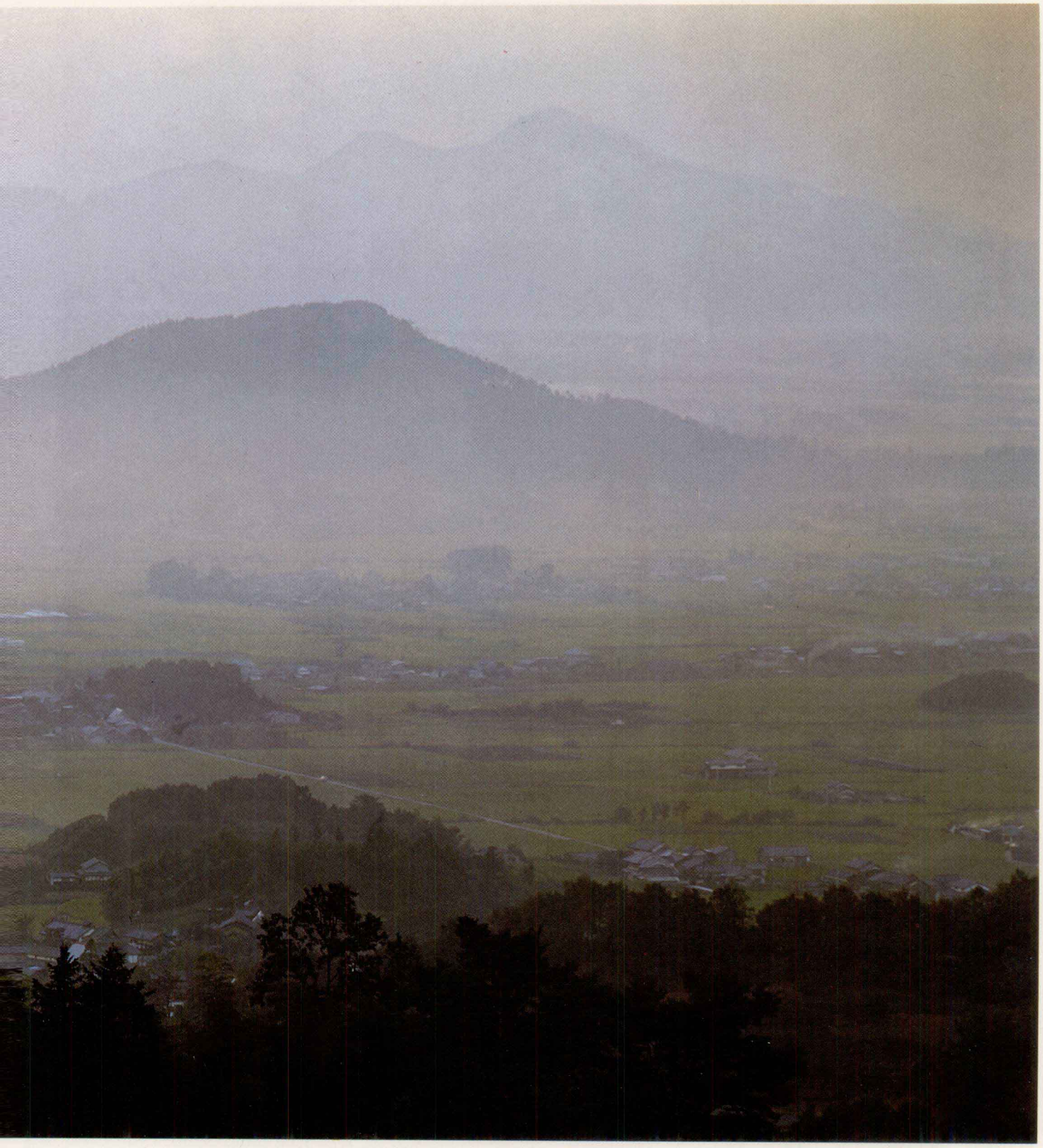
〈第二巻・執筆者〉
筑波大学教授――伊藤　博
成城大学教授――上原　和
学習院大学教授――黛　弘道

〈装幀〉
後藤市三

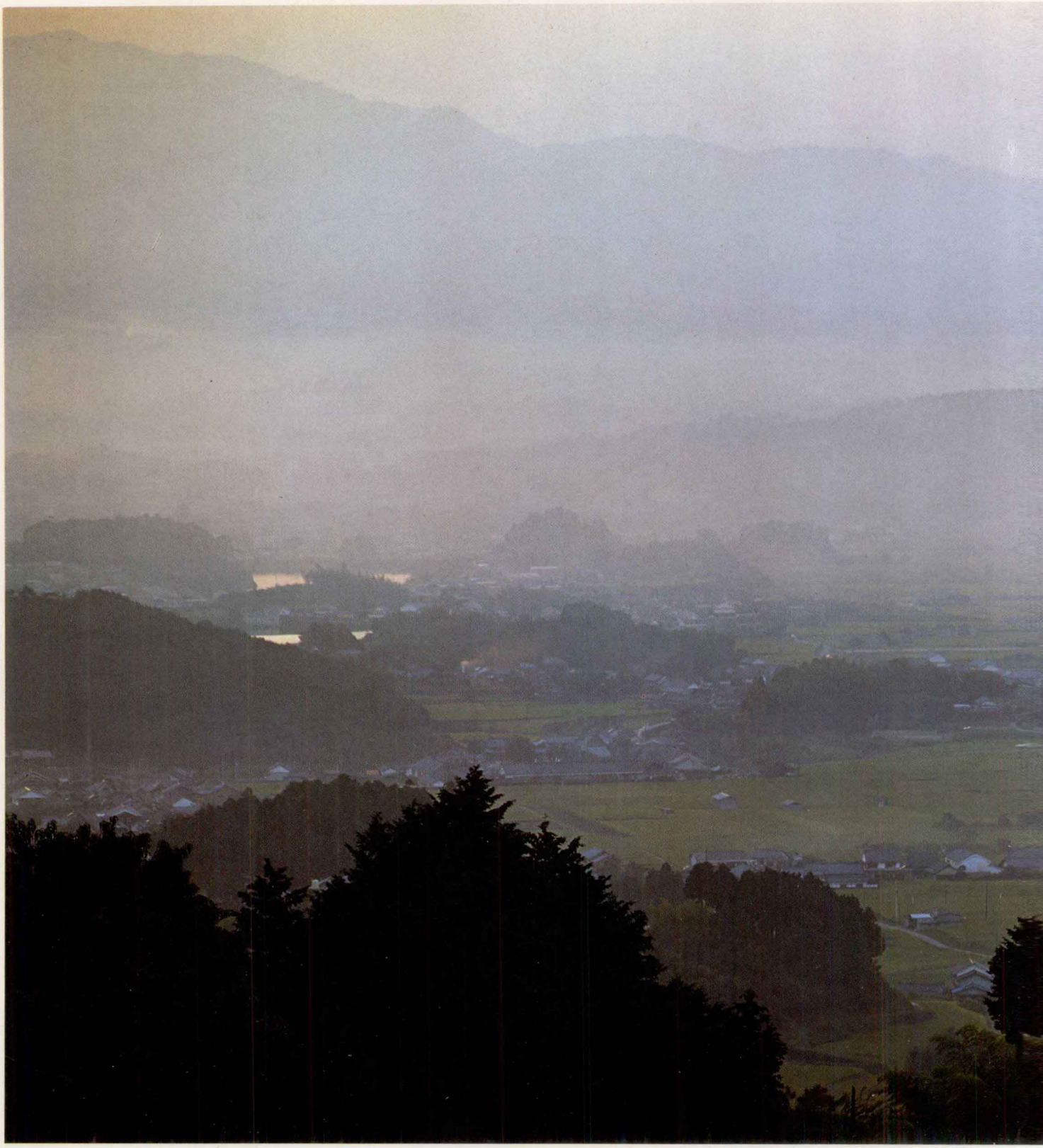
〈レイアウト〉
宇喜多邦嘉
樋口英男

史跡 1

1　**明日香古京の春**——萬葉時代の歌は，大きく「白鳳萬葉」と「天平萬葉」とに分けることができる。前者は明日香(あすか)に生まれ育った文学，後者は平城に熟成された文学である。明日香は，萬葉歌の黎明(れいめい)をもたらした貴重な風土であった。そのせいか春がよく似合う。本図は飛鳥川越しに川原寺(かわらでら)を望む。奈良県高市郡明日香村。



2



2　**大和国原(やまとくにはら)**——大和は日本の詩歌の原郷である。この原郷をたたえて，古代人は「大和は　国のまほろば　たたなづく　青垣　山ごもれる　大和しうるはし」と歌った。以来，日本民族は，ながく自然との交感を文学の主要なテーマとしつづける。本図中央右よりに畝傍山(うねびやま)，左よりに明日香の里。遠方は，二上山(ふたかみやま)と葛城(かづらき)連峰。奈良県桜井市高家(たいえ)から望む。

3

3　**蒲生野**――天智7年(668)5月5日，美しく着飾った宮廷の男女が，近郊の山野に鹿茸(ろくじょう)や薬草を求めて，薬狩(くすりがり)をおこなった。近江国の蒲生野(がもうの)においてのことである。諸王・群臣ことごとく従駕(じゅうが)。その一行のなかには，大海人皇子(おおあまのみこ)や額田王(ぬかたのおおきみ)の姿もあった。滋賀県八日市市布施。

4　**柳生大歓筆『標野行(しめのこう)』**――
あかねさす　紫野行き　標野行き　野守(のもり)は見ずや
君が袖振る　額田王
紫の　にほへる妹(いも)を　にくくあらば　人妻ゆゑに
我れ恋ひめやも　大海人皇子
昭和2年作，原品焼失，複製。／千葉県・柳生大歓氏蔵

4

5　**菜摘の清流**――吉野離宮のあった宮滝をさかのぼること約2キロメートル，吉野川が大きく屈曲するところが菜摘(なつみ)である。離宮に従駕してきた都人のなかには，このあたりまで逍遙の歩をはこぶ人もいくたりかあった。湯原王(ゆはらのおう)が歌った「吉野なる　菜摘の川の　川淀に　鴨ぞ鳴くなる　山かげにして」は，その折の一つである。奈良県吉野郡吉野町菜摘。

5

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

史跡 6

6　**伝飛鳥板蓋宮跡**――板蓋宮(いたぶきのみや)は，皇極２年(643)4月，皇極天皇が小墾田宮(おはりだのみや)から遷居し大化元年(645)12月，孝徳天皇が難波(なにわ)に遷都するまでの都。斉明元年(655)１月，皇極重祚にあたり再度都となったが，同年冬焼失し，斉明(皇極)は飛鳥川原宮に遷った。萬葉の才媛額田王が，皇極に召されたのはこの板蓋宮においてであった。推定地(６図)は奈良県高市郡明日香村岡。後方の中央は耳成山(みみなしやま)，左は甘橿(あまかし)の岡，右は香具山(かぐやま)。

7　**雷丘**――雷丘(いかずちのおか)で国見をされる持統天皇をたたえて，柿本人麻呂は「大君は　神にしませば　天雲の　雷の上に　いほらせるかも」と歌いあげた。この丘は，明日香の国土を見はるかす聖地であった。ただし，甘橿の岡，あるいは飛鳥坐(あすかにます)神社の森を，雷丘とみる説がある。遠景は畝傍山，さらに二上山雄岳(おたけ)。奈良県高市郡明日香村。

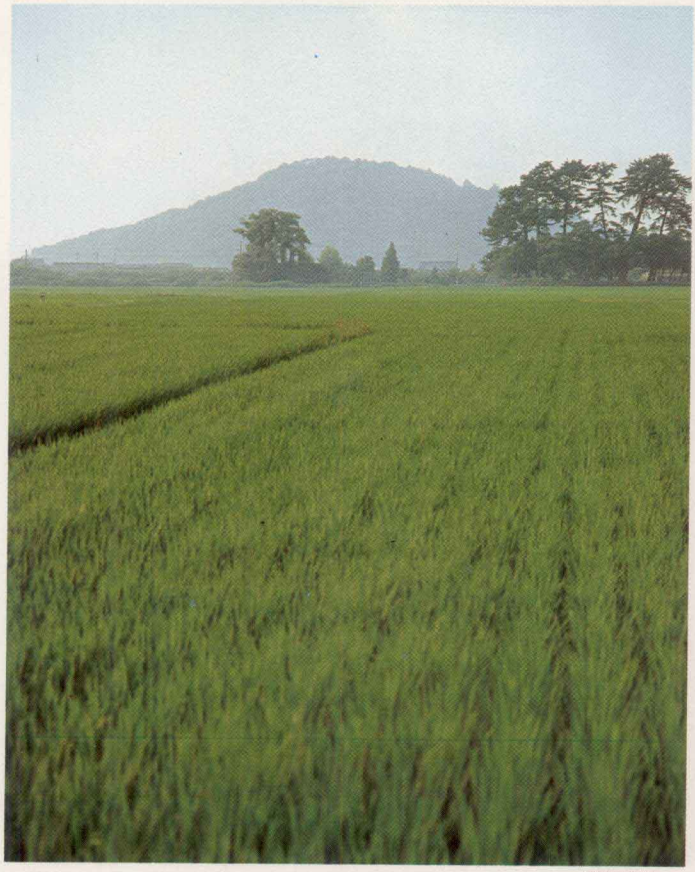
8　**檜隈大内陵(ひのくまのおおうちりょう)**――持統２年(688)11月，２年３か月の殯宮(ひんきゅう)儀礼を終え，天武天皇を葬る。持統天皇は，夫君天武の遺志をつぎ藤原宮を完成させたが，その条坊は大内陵を基点にして構築された。大宝２年(702)12月，持統崩御。翌年12月，遺言によるのであろう，同陵に合葬。かつては快晴の日，この陵の右端に立つと，龍王山・三輪山・巻向山(まきむくやま)がさながら大鳥をなして美しく望まれた。奈良県高市郡明日香村。

9　**真弓の岡**――佐田の岡ともいった。天武・持統の子草壁皇子(くさかべのみこ)は，天武10年(681)２月，皇太子となり，即位を嘱望されたが，持統３年(689)４月，28歳で病没。ただちに真弓(まゆみ)の岡で殯宮が営まれ，やがてこの地に葬られた。「外(よそ)に見し　真弓の岡も　君ませば　常(とこ)つ御門(みかど)と　とのゐするかも」は，皇子に仕えた舎人たちが多数残した挽歌の一つ。現在，皇子の墓は，岡宮天皇真弓丘陵と称する。岡の後方は葛城連峰。奈良県高市郡高取町。

7

8

9



特別史跡 11

10 国宝

10　古代宮廷の女性たち——昭和47年(1972)早春3月，高松塚古墳から日月(じつげつ)・星辰(せいしん)・四神(しじん)および人物像を描く極彩色(ごくさいしき)の壁画が発見され，古代の風俗をあざやかによみがえらせた。本図は，西壁右側で亡き人を見守る婦人群像。髪をうしろにたばね，上衣は左前，裳(も)をすそびいている。うち，2人は円翳(えんえい)・如意(にょい)を持つ。奈良県高市郡明日香村。

12

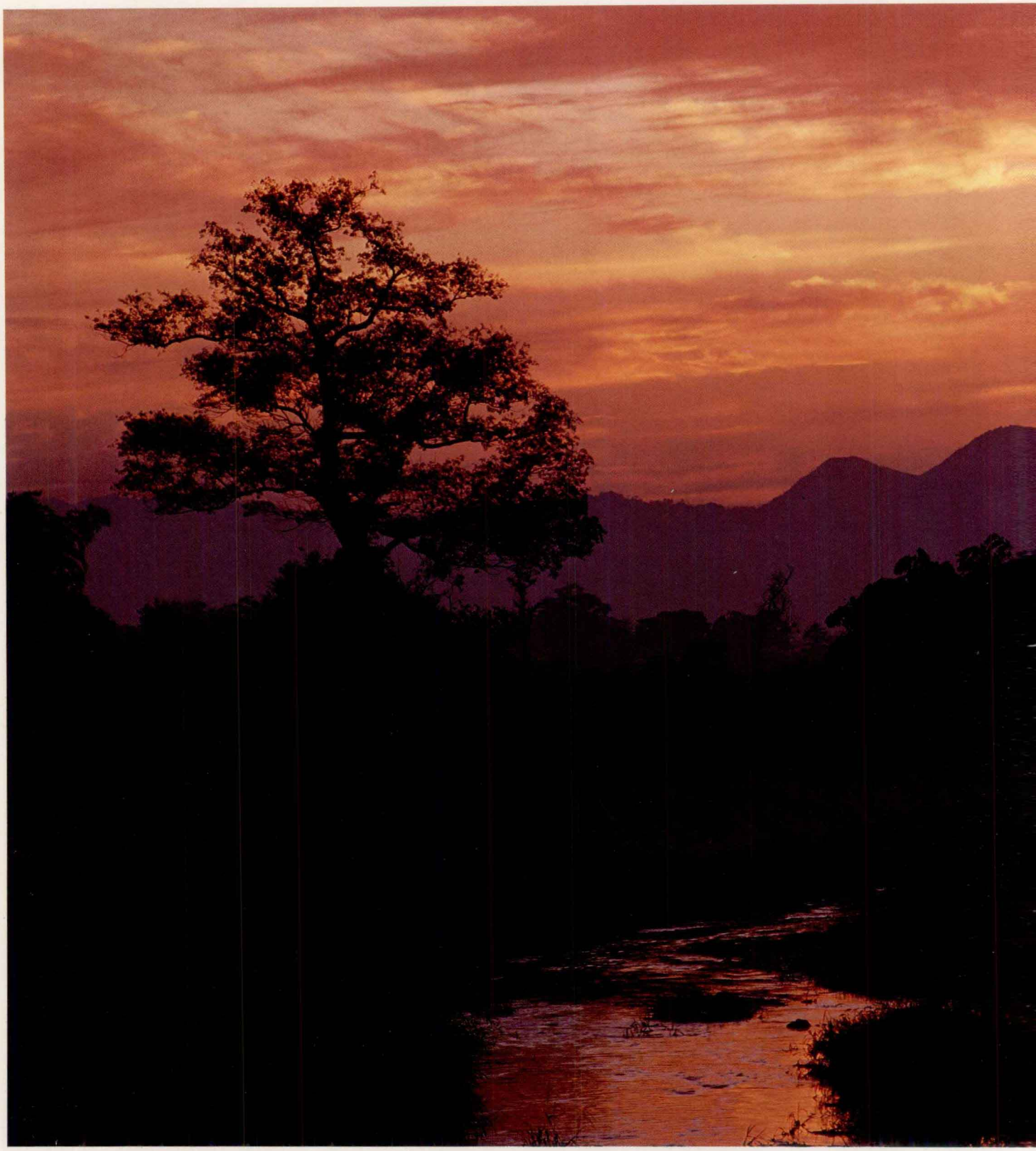
11　藤原宮大極殿跡——藤原宮(ふじわらのみや)は，持統8年(694)，持統天皇が夫君天武の遺志をついで完成した，中国の都城にならう日本最初の恒久的宮都であった。和銅3年(710)の平城京遷都まで，持統・文武・元明3代17年の都として栄えた。持統御製「春過ぎて　夏来(きた)るらし　白栲(しろたへ)の　衣干(ほ)したり　天(あめ)の香具山」は，藤原遷都後まもないころの詠とみられる。後方の山は耳成で，香具山は右手に望まれる。奈良県橿原市高殿町。

12　『柿本人麻呂肖像』——人麻呂は白鳳萬葉後期の歌人。生没年・官位閲歴ともに不明だが，持統天皇の庇護(ひご)のもとに活躍した宮廷歌人だったと推測される。古代随一の歌人で，後世「歌の聖(ひじり)」と称され，その画像をかざって和歌道への精進を誓う歌会が開かれた(柿本影供〈かきのもとのえいぐ〉)。絹本着色。縦91.9cm　横45.3cm／京都国立博物館

13

13　**山の辺の道**——山の辺の道は，日本最古の大王家，三輪王朝ゆかりの古道。三輪王朝の始祖崇神天皇の磯城瑞籬宮(しきのみずかきのみや)，山辺道勾岡上陵(やまのへのみちのまがりおかのへのみささぎ)，および王家の武器を蔵する石上神宮が，ほぼ等間隔にこの古道の上に位置を占める。7世紀，上・中・下の幹線3道の設置にともない，草ぶかい山裾の小径に帰したらしい。瑞籬宮伝承地付近。後方の山は音羽山。奈良県桜井市金屋。

14



14　**二上山夕景**——大和国原の西の果てに，秀麗な姿を示してそびえる二上山。その向こうは，大和の人びとにとって異郷である。朱鳥(あかみとり)元年(686)10月，謀叛(むほん)のかどで処刑された大津皇子(おおつのみこ)は、翌年の春，この二上山頂に葬られた。この皇子の死を悼(いた)んで，姉大伯皇女(おおくのひめみこ)が，「うつそみの　人にある我れや　明日よりは　二上山を　弟背(いろせ)と我れ見む」と歌っている。本図は奈良県桜井市穴師(あなし)から望む。手前は穴師川。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com